

# なぜ英語が話せないの

<43>

## 会話上達法 第三部

# 英字新聞を読もう

## 必要な生きた単語の暗記

かつて英国大使館(東京)にデノン・エドントンという書記官がいた。オックスフォード卒の後才で、アツという間に日本語が上手になった。来日後わずか一年で、丁々発止とまごはくかなくとも、かなり流ちょうな日本語を話した。

パーティーで彼の家に招かれたとき、ふと机の上を見ると、分厚い大学ノートが五冊。中には単語(日本語)がビシビシ書き込まれている。その横には英語の意味が列記してあり、毎晩妻と二人ずつ単語を暗記しているという。

エドントン氏は、これらの単語を毎朝、朝の日本の新聞の中からピックアップした。同じ英園

トンは「silver dollar」の語を覚える。

英字新聞を読めば、政治、軍事、社会、スポーツ、音楽、天候、気象……と美に多彩な単語が出てくる。教科書が人試に出る難解な単語が日常会話ではほとんど役に立たないのに対し、こ

人々N.H.K.テレビ英会話講師でも、米英人と経済問題の議論をするには、多くの専門用語の知識が必要である。『Practical English』(保蔵貿易主筆)『American English』(赤十字算)といった単語から、アメリカ人が点検服の地道な努力は意外に「ten bucks」(十ドルの意味だし)「suits」(白)

でも、米英人と経済問題の議論をするには、多くの専門用語の知識が必要である。『Practical English』(保蔵貿易主筆)『American English』(赤十字算)といった単語から、アメリカ人が点検服の地道な努力は意外に「ten bucks」(十ドルの意味だし)「suits」(白)



英字新聞には日常会話でよく使う単語や表現が多く含まれる

また昇る)など、生きた会話がふんだんに出てくる絶好の教材もある。語学、ゴルフ、囲碁といったなれに変わり、喜びも大きい。